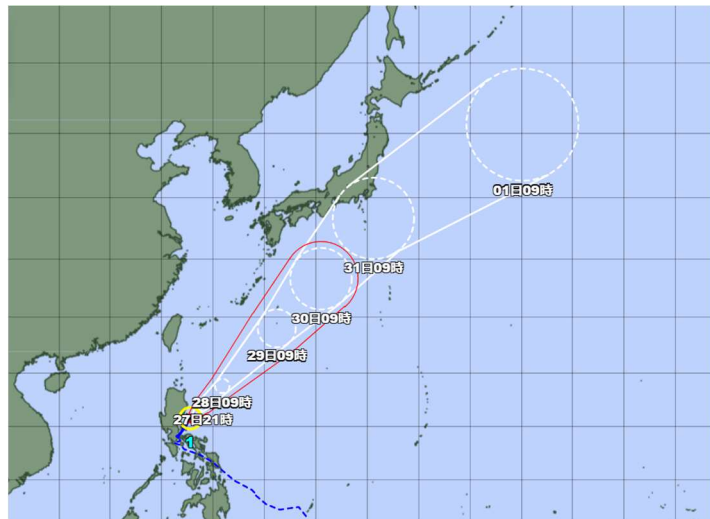


台風1号の影響に対する農作物の技術対策

令和 6年 5月 27日
山梨県農政部農業技術課

台風1号が接近しています。また、その後も連日曇雨天が続く予報ですので農作物に管理に十分注意してください。



気象庁：2024年5月27日12時発表

台風第1号(イーワイニヤ)	
2024年05月27日09時50分発表	
27日09時の実況	
種別	台風
大きさ	-
強さ	強い
存在地域	フィリピンの東
中心位置	北緯15度50分 (15.8度) 東経122度50分 (122.8度)
進行方向、速さ	北東 ゆっくり
中心気圧	985 hPa
28日09時の予報	
種別	台風
強さ	強い
存在地域	フィリピンの東
予報円の中心	北緯18度50分 (18.8度) 東経125度55分 (125.9度)
進行方向、速さ	北東 25 km/h (13 kt)
中心気圧	975 hPa
中心付近の最大風速	35 m/s (70 kt)
最大瞬間風速	50 m/s (100 kt)

○被害防止のため、以下の事前・事後対策の徹底をお願いします。

○台風や降雨予想など、今後の気象情報に十分注意するとともに、突風や降ひょうにも注意してください。

○降雨の影響による農薬散布やジベレリンの再処理等については、お近くの農務事務所や農協の指導担当者に相談してください。

○共通

「事前対策」

- ①ほ場周辺の排水路を点検、補修、整備するとともにゴミ等を取り除き、排水路からの逆流を防止する。また、ほ場内には、排水溝を設ける。
- ②風の強く当たる地域では、ほ場周辺に防風ネットを設置する。
- ③ハウスなどの支柱や基礎などを点検、補強するとともに、ビニールがまくられないようにマイカ線等を点検し、施設の被害防止に努める。
- ④強風による飛ばし物で、ハウスなどの施設が損傷を受けないように、周辺の清掃や防風ネットを設置する。

「事後対策」

- ①滞水しているほ場は、速やかに排水を行う。
- ②茎葉や果実の損傷により病害の発生が懸念されるため、指導機関の指示にしたがって薬剤を散布し、病害の発生を予防する。
- ③施設栽培では、棚やパイプハウス、ビニール、各種の装置、機械等を点検し、破損のある場合は速やかに修理する。

○果 樹 共通対策に加え、以下の対策を実施する。

「事前対策」

①傾斜地等では、樹冠下の土壌流亡を防ぐため、敷ワラや敷草を行う。

＜立木果樹＞

①倒伏や主幹部の損傷を防止するため、支柱等により固定する。帆柱が設置してあるモモ園等では針金を点検し補修する。

②スモモ等では、枝のゆれによる落果を防ぐため、風の当たりやすい枝を中心に支柱などにより固定する。

＜棚栽培果樹＞

①強風による棚のゆれや倒壊を防ぐため、つか杭を設置する。

②ブドウでは、新梢が強風により棚から外れるのを防ぐため再誘引を行う。

③ブドウおよびナシ・モモ・スモモの棚栽培では、棚の周囲に防風ネットを設置する。

＜施設果樹＞

①施設栽培では、棚やパイプハウスを点検し、補修や補強を行う。特にビニールがまくられないようにマイカー線等の点検を徹底する。

②オウトウやブドウの雨除けハウスでは、施設の倒壊を防ぐため、風が強くなってきたらビニールを巻き上げる。

なお、収穫の終わったオウトウの園では、天張りビニールや防鳥ネットの収納に努めるが、収納できない場合は、巻き取りパイプをしっかりとハウスに固定し破損を防ぐ。

「事後対策」

①園地が滞水している場合は、速やかに排水対策を図る。また、傾斜地で根元の土壌が流亡している場合は、土寄せを実施する。

②樹が倒伏した場合は、台風通過後直ちに、根を切らないように樹を起こし、根元に土を寄せ支柱等で固定する。

③太枝が裂けた場合は、裂傷部をビニールで覆い、縄等で結束する。なお、裂傷がひどい場合は、裂傷部を平らに剪除し、ゆ合剤を塗布する。

④有袋栽培のモモで、二重袋の外袋など袋が脱落したものは、袋をかけ直す。

⑤ブドウは、枝や新梢の再誘引、カサのかけ直しを行う。また、葉ズレ、カサズレ、打撲のひどい果粒は摘粒する。

⑥落果した果実は、病害の伝染源となるため、速やかに園外へ持ち出すか、土中に埋める。

⑦ほ場巡回を行い、裂果や果実腐敗病が発生している場合には、速やかに除去する。

⑧強風や雨により、枝葉や果実等への損傷や泥のはね上がりなどから、病害の発生が心配されるため、防除基準にしたがって薬剤防除や発病果などの除去を徹底する。

⑨施設栽培では、棚やパイプハウス、ビニール、各種の装置、機具、機械等を点検し、破損のある場合は修理する。

○野 菜 共通対策に加え、以下の対策を実施する。

「事前対策」

- ①ナス、トマト、キュウリは、倒伏を防ぐため支柱の補強、固定、誘引等を行う。
- ②スイートコーンは、受粉期以降から収穫前のステージ（絹糸抽出からおおむね2週間以降）では、雄穂を切除して草丈を低くするトップング処理を行うことにより、倒伏軽減効果が得られる。

「事後対策」

- ①果菜類では、茎葉の損傷や泥のはね上がりにより、疫病、菌核病等の病害発生が懸念されるため、天候の回復を待って薬剤を散布して病害の発生を予防する。
- ②ナス、キュウリ、トマト等は、キズ果を早めに除去し、樹の負担の軽減を図る。倒伏したものは速やかに引き起こす。この際、根を切らないように注意する。
- ③スイートコーンは雄穂抽出期前の株は自力で起き上がるため、そのまま管理を続け回復を待つ。雄穂抽出期後の圃場では、今後の薬剤防除に支障を来す場合には、マイカー線で囲むなどして株を支える。収穫時期が近く防除の必要の無い圃場は、そのままにして収穫を迎える。スイートコーンは、無理に引き起こすと反対側の根を傷めるので、原則そのまま管理する。

○花き 共通対策に加え、以下の対策を実施する。

「事前対策」

- ①露地切り花は、冠水防止のため畝間に排水溝を設置する。
- ②鉢花の露地ベンチ栽培では、ベンチに固定できる鉢利用（C鋼鉢）や穴あきトレーを利用するなど日頃より台風等による倒伏防止に努める。

「事後対策」

- ①茎葉の損傷により、疫病、灰色かび病等の病害発生が懸念されるため、防除基準にしたがって予防散布を徹底する。

○水 稲

「事前対策」

- ①浸水・冠水害を防止するため、排水路の点検、補修、ゴミの除去を行う。
- ②事前に水口、排水口をふさぎ、水の流入を防ぐ。
- ③ほ場内で育苗している場合は、周囲に排水溝を設ける。

「事後対策」

- ①浸水や冠水した水田では、早急に排水に努め、新鮮な水を灌漑する。

○畜 産

「事前対策」

- ①畜産施設については、損傷、倒壊等を避けるため早めの点検を行い、必要に応じて補修を行う。
- ②畜産施設への浸水の恐れがある場合、溝を掘るなどの対策を講じる。また、畜舎への浸水等による家畜への被害に備え、事前に避難場所の確認などを行う。
- ③停電や断水等への対応を確認し、必要に応じて発電機等の手配をするとともに、搾乳作

業やバルククーラーの冷却に支障のないよう、万全を期す。

「事後対策」

①飼料作物

冠水や浸水等の被害を受けたほ場においては、速やかな排水に努める。

②家畜

養分の低下した飼料作物や品質の低下した濃厚飼料の給与をする場合は、栄養価や嗜好性等にも配慮し、家畜の生産性が低下することのないよう注意する。

③畜舎

天候が回復した後、直ちに畜産施設内及びその周辺の排水を行う。また、土砂が流入した場合には、再度の土砂流入等の事故に十分注意しつつ、土砂を除去する。

台風通過後は、畜舎内外の消毒を徹底し、疾病等の未然防止に努める。